

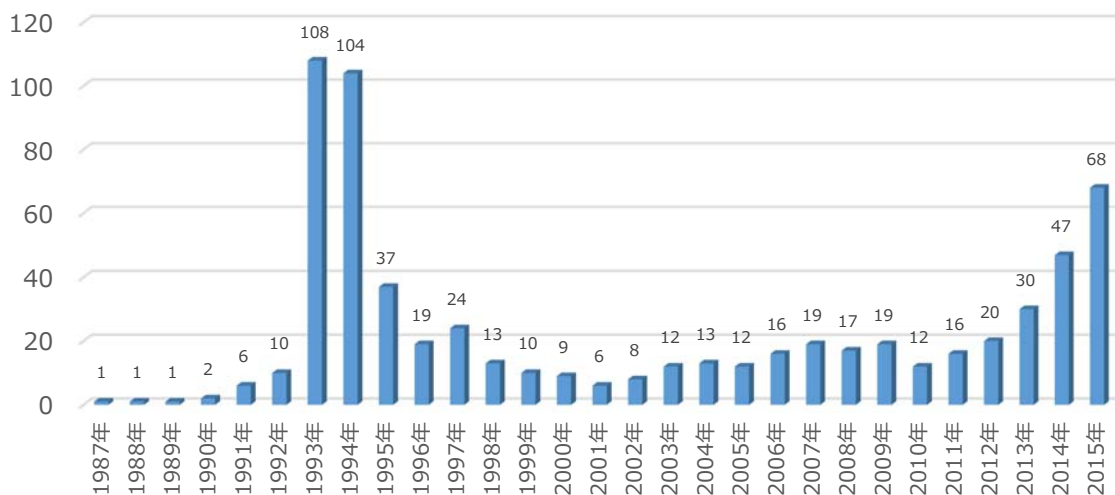
防水スプレーを吸い込む事故に注意しましょう！

1. 防水スプレーを吸い込む事故について

防水スプレーは、衣類や傘などの繊維製品、かばんや靴などの皮革製品の表面にスプレーすることで、手軽にはっ水加工ができる製品です。便利な製品ですが、適切に使用しないと、重篤な健康被害を起こすことがあります。

過去には、1992年から1994年のスキーシーズンに、防水スプレーを室内等で使用して吸い込み、呼吸困難や肺炎等で入院する事故が多発し、日本中毒情報センターの中毒110番には多くの相談が寄せられました¹⁾。これをきっかけに、厚生省(当時)、製造事業者等により、防水スプレーの安全対策が取られ²⁾、その後も見直しが行われています³⁾⁴⁾。現在では、エアゾール製品には「注意」「吸い込むと有害・必ず屋外で使用」という製品表示がされています。

しかしながら、中毒110番には現在でも「防水スプレーを吸い込んでしまった」という相談があります⁵⁾。特にここ数年は増加傾向にあり、2015年には、防水スプレーを吸い込んだ事故に関して、68件の相談がありました。



防水スプレーを吸い込んだ事故に関する中毒110番への相談件数

日本中毒情報センターでは事故防止の観点から、これらの事故について、厚生労働省の『家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告』の「家庭用品等に係る吸入事故等に関する報告」⁶⁾において報告しています。

2. 防水スプレー使用時の事故の特徴

2015年に相談があった吸入事故68件のうち、66件(97%)が防水スプレーを使用した際の事故でした。使用時の事故66件の特徴は次のとおりです。

- 事故が発生した月は、6月9件(14%)、7月8件(12%)、9月、11月各7件(各11%)、1月、2月、5月各6件(各9%)でした。

- ・ 使用した製品は、判明した範囲で、靴・皮革用が25件(38%)、衣類・靴両用が13件(20%)、衣類用は11件(17%)で、複数の防水スプレーを使用した例も4件ありました。
- ・ 使用対象は、判明した範囲で、靴27件(41%)、衣類19件(29%、うちレインコート7件、スキーウェア6件)、かばん4件(6%)でした。
 - ✓ **雨や雪のシーズンに、靴や衣類にスプレーしようとして事故が起こっています！**
- ・ 屋内や車内で使用した事例が40件(61%)、ベランダや玄関の外、ガレージなどで使用した事例が7件(11%)でした。屋外で使用したが、風向きが変わり吸い込んだ事例が7件(11%)、子どもの近くで使用した事例も6件(9%)ありました。
 - ✓ **屋内はもちろん、屋外でも風向き等で吸い込む事故が起こっています！**
- ・ 吸い込んでしまった人は20歳以上が55件(83%)を占めました。
- ・ 54件(82%)で咳や息苦しさ、頭痛、発熱等の症状を認めました。入院が必要となった例もありました。
 - ✓ **大人の事故が多く、大半の事例で症状が出ています！**

3. 防水スプレーを吸い込む事故を防ぐには

どんな製品であっても、正しく使用しないと健康被害が出る可能性があります。使用前には、まず製品の説明書きをよく読み、よく理解した上で正しく使用することが大切です。

特に防水スプレーでは、健康な成人であっても、入院を必要とした例は少なくありません。使用者、周囲の人ともに絶対に吸い込まないように、次の点に注意して使いましょう。

- ✓ **使用前に製品表示、特に「使用上の注意」をよく読んでから使用する**
- ✓ **マスクを着用し、必ず風通しの良い屋外で使用する**
- ✓ **周囲に人、特に子どもなどがいないことを確認してから使用する**

万一吸い込んでしまった場合は、早めに医療機関や日本中毒情報センターにご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス(一般向け)

■大阪中毒110番(365日 24時間対応) 072-727-2499

■つくば中毒110番(365日 9時~21時対応) 029-852-9999

4. よくある質問

Q1 最近になって防水スプレーによる事故の件数が増えている理由を教えてください。

1992年から1994年に多発した事故は、12月~3月のスキーシーズンに集中しており、主にスキーウェアへの使用による事故でした。それに対し、最近では年間通して事故が発生しており、雨や雪のシーズンで多くなる傾向が見受けられます。

あくまでも推測になりますが、理由のひとつとして、衣類用のほか、皮革用、衣類・靴両用等、さまざまな製品が出回るようになっており、使用機会そのものが増えているのではないかと考えます。

Q2 吸い込むと、なぜ、呼吸困難や肺炎が引き起こされるのでしょうか。

これまでの検討により、呼吸困難や肺炎は、スプレーの細かい粒子を吸い込んで、撥水性の樹脂が肺胞に付着することにより、肺でのガス交換に支障を来すためと考えられています。また、溶

剤による刺激性などの影響も考えられます。

Q3 90年代に事故が多発したあとの防水スプレーの安全対策について教えてください。

健康被害の起こりやすさは、成分の影響もありますが、同じ成分であっても、スプレーから出た「粒子の大きさ」と、スプレー対象への「付着率」が、健康被害に関係することがわかっています。スプレーが細かく、付着率が低いと、吸い込みやすく、重篤な健康被害を引き起こす可能性があります。

90年代に事故が多発したあとの安全対策として、成分のほか、吸い込みにくくするために粒子の大きさや付着率についても改良が行われ、製品表示等も工夫されるようになりました³⁾⁴⁾。

Q4 吸い込むと症状が出やすくなる条件を教えてください。

健康被害の出現には、使用した製品や使用量のほか、気温、使用場所、換気の状況、マスクの有無なども大きく影響する可能性があります。また呼吸器の疾患のある人や喫煙者、高齢者等は症状が重篤になる可能性があると考えています。

Q5 防水スプレー以外に注意した方がよい製品を教えてください。

防水スプレーと類似のメカニズムで起こる健康被害としては、紫外線カットをうたう衣類用コーティングスプレーでも同様の事故があったとのことで、消費者庁および国民生活センターが注意喚起しています⁷⁾⁸⁾。

5. 参考資料

- 1) 石沢淳子, 辻川明子, 黒木由美子, 他:防水スプレー吸入による急性中毒事故.日本医事新報 1994; 3638: 47-50. 同(第二報).日本医事新報 1994; 3680: 49-52.
- 2) 中村晃忠.: 防水スプレー.(財)健康・体力づくり事業財団 平成7年度健康被害情報調査報告書1996; 45-80.
- 3) 厚生労働省化学物質安全対策室:家庭用防水スプレー製品等安全確保マニュアル作成の手引(第3版)(平成27年3月) <http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/manual.html>
- 4) 日本エアゾール協会:安全性向上のための自主基準 <http://www.aij.or.jp/standard.html>
- 5) 波多野弥生, 今別府文昭, 野村奈央, 他:防水スプレー吸入による健康被害.中毒研究 2010; 23: 73-78.
- 6) 厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室:家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告. [http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/monitor\(new\).html](http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/monitor(new).html)
- 7) 消費者庁:消費者安全法の重大事故等に係る公表について(平成24年11月15日) http://www.caa.go.jp/safety/pdf/121115kouhyou_2.pdf
- 8) 国民生活センター:フッ素樹脂、シリコン樹脂等を含む衣類用スプレー製品の安全性－防水効果をうたっていない商品について－http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20130404_1.html

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター(本部事務局 電話:029-856-3566)の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。

以上